

授業科目	エアライン英語				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	TO31617J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP5-2			
担当教員	宮原 英利							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】 実務家教員として、空港勤務や海外駐在を行った経験を活かして、エアライン業界において日常使用される実務の英語を学ぶ。授業の進め方として、各実務(空港実務・営業、販売実務・運賃・CA・航空管制等)ごとに行うが、ただ単に、用語を学ぶのではなく、その背景にあるエアラインの業務内容やつながりについても同時に学ぶようにする。尚、この授業は、遠隔授業として実施する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	1.エアラインで使用されている専門用語(英語)を理解できる。 2.エアライン業界の最新事情を理解できる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	10	10					20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	40	20					60	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)	10	10			0		20	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
エアライン業界のさまざまな場面で使用される英語を習得する。特に定型化された業務に対しては、英語で対応可能とする。				エアライン業界のさまざまな場面で使用される英語を理解できる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション(授業の進め方、学習方法、成績評価等の説明)			講義		予習(今までに聞いた事のある航空機に関する英語にはどのようなものがあったか)		30

2	エアライン業界関連、及び航空輸送機関の用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
3	空港会社(空港)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
4	空港業務(搭乗手続き)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
5	空港業務(出入国)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
6	空港業務(運行管理)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
7	空港業務(運行支援)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
8	空港業務(整備)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
9	予約業務(国内線・国際線)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
10	運賃(国内)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
11	運賃(国際)に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
12	CA(キャビンアテンダント)業務に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
13	機内設備に関する用語	講義	当該箇所の予習・復習	45
14	まとめ。試験	講義	当該箇所の予習・復習	45
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				

27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1、2年次に学んだ英語をきちんと習得していること。			
テキスト	「エアポートビジネス入門」JTB 総合研究所			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・エアライン・ビジネス入門 稲本恵子編著 晃洋書房 ・現代の航空輸送事業 三田譲 編著 同友館 ・ANAグランドハンドリング ANAエアポートサービス株式会社 株式会社アプレ ・その他、適宜授業にて紹介する 			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	航空機(特に国際線)を利用する際には、エアライン英語に身近に触れる体験ができます。そのような時には、掲示、アナウンス、印刷物などの英語をなるべく意識するようにして、授業で学んだ(あるいはこれから学ぶ)ことの復習(あるいは予習)の機会として活用してください。			
達成度評価に関するコメント	試験 60%、小テスト 40%とし、総合的に評価する。			

